

地域を中心とした取組と成果（中間）

NPO法人Ohanaの訪問活動やモデル事業実施から捉えた課題

- 高度な医療ケアを必要としない場合に、在宅生活を見越した十分な退院指導や退院後のフォローがされない場合がある。
- 地域では、NICU退院児の成長・発達に沿った指導や支援を行える関係者が少なく、また関係機関との連携やサービス提供が十分でない。
- 親が、在宅療養を行なう上で抱える不安や困難などを解消し、児の望ましい成長・発達へとつなげる支援がなされていない。

モデル事業の実施

墨東病院のNICU入院児支援コーディネーターと連携し、会議や研修会の開催

- ・保健所等との調整会議の開催
- ・訪問看護ステーション向け勉強会の開催

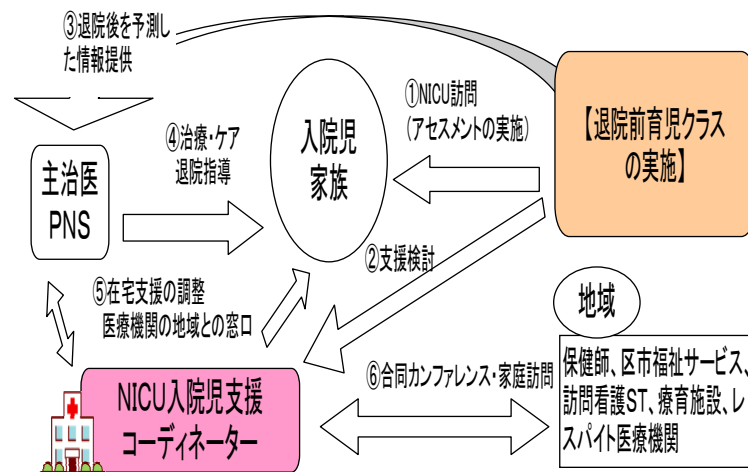
- ・NICUスタッフ向け勉強会の開催
- ・墨東病院のスタッフを対象とした研修会の開催

退院前後育児クラスの実施

1. 墨東病院入院中からの介入 ～退院前育児クラスの実施～

【目的】

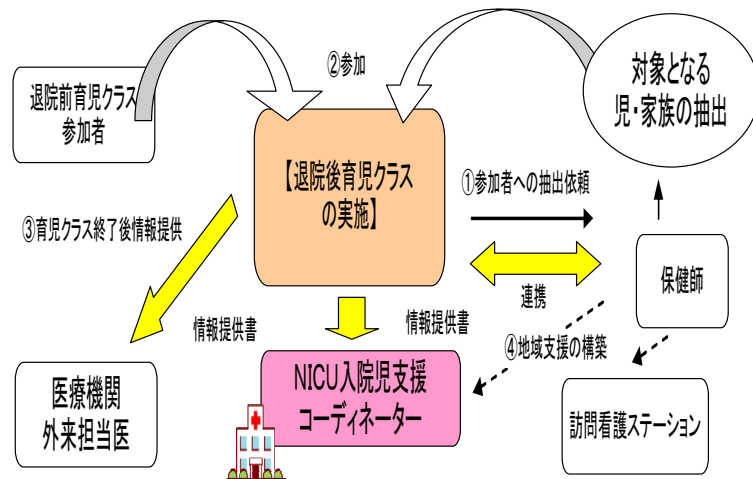
- ・児の在宅生活を予測した退院指導と、訪問看護や保健師等、地域支援の早期介入を実現
- ・周産期母子医療センターと地域との関係機関への情報提供と連携強化
- ・中間層（右上図Ⅱ）の支援強化による、NICU/GCUの在院日数の減少



2. 地域でのフォローアップ ～退院後育児クラスの実施～

【目的】

- ・親への助言、相談の場の確保（発達の促しかた、発育、発達の受容等）
- ・要支援家庭と児の早期発見と支援
- ・周産期母子医療センターと地域関係機関との連携強化



NICU等に長期入院した児を持つ家族の交流や、情報・経験の集約と普及啓発

- ・家族の交流会の開催
- ・手記の作成

東京都で先駆的に実施できる取組みの検討

- ・NICU退院支援手帳（仮）の作成

モデル事業の実施により見えてきたもの

before

呼吸、哺乳、体重増加など良好なため
早期介入なし

見せかけの養育力（※）で
退院

（※）本来は、手技の訓練等の丁寧なフォローが必要であるが、入院中の状況で、養育力があると判断されたため適切な支援がされないまま退院してしまうことがある。

退院後に予測外の医療
ケアが必要となる
【退院後に予測される医療ケア】
気管切開・胃管チューブ・ストマケア・
口鼻腔吸引など

育児への不安
が強くなる

after

退院後の必要なサービスを予測し、
早期介入

【退院前からの準備】
・訪問看護の導入
・摂食指導
・福祉サービスへのつなぎ

退院
↓
退院前から準備された
医療ケアの活用

これらのサービスや準備を
イメージできることで円滑な
在宅移行支援が実現

NICU、GCU
在院日数の短縮

H23年度の取組

課題

早期支援（早期介入）の必要性

- ・成長発達過程で起こりうる医療的課題の早期発見
- ・児に必要な地域支援の早期獲得
- ・親の育児不安へのサポート確保

- 退院前・退院後の育児クラスについて開催回数を増やし、早期介入を推進する。
- 各研修会を通し、医療者や、地域の関係者に知識の共有を促す。
- 墨東病院でのスタッフカンファレンスや、退院パンフレットの改正、退院指導DVD作成に参加し、院内と地域の連携を深める。